

# 小学4年1組 音楽科学習指導案

指導者 神門 洋子

5音音階から即興的にふしを選び、グループでそのふしに合うリズムの組み合わせを工夫する活動をさせたことは、一人一人が自分の表現を楽しみ、さらに互いの表現を分かち合っていくために有効であったか。

## 1 題材名 おはやしのリズムやふしで遊ぼう

## 2 授業の構想

(1) 次の日記は10月の中旬、松江祭の鑿行列を見た児童のものである。

今日、松江鑿行列を見に行きました。今年、松江400年祭だったのでより盛大だったと思います。ぼくは、かみしもを着た松浦市長と写真を撮ることができました。みんな太鼓を大きな音で、リズムよくたたいていたのですごかったです。

本校では子どもたちが毎年秋に行われる鑿行列を見に行ったり、実際に鑿を引っ張ったりしている。1学期にはホーランエンヤのお祭りについて興味をもち、ホーランエンヤの祭りについて調べたり、歌を口々に歌ったりする姿も見られた。また本校の全校活動として行われる「夏祭り」では全員で「附小音頭」を踊ったり歌ったりしている。自分で太鼓を力いっぱいたたいたり大勢と一緒にたたいたりする経験は少ないが、祭りの楽しさを体感したり、祭りや祭りのおはやしに興味をもったりしている子が多い。

また本校では、ソプラノリコーダーの検定員制度があり、検定員の児童が中心となって、多彩な曲を主体的に練習し、レパートリーを増やすなどリコーダーの演奏に親しんでいる。加えて合奏の学習をしている時には、休み時間に違うパートの友だちと一緒に演奏する等、自分たちで拍を合わせて演奏することもできる。

音楽づくりに関しては、これまで子どもたちはリズム遊びを通して、2小節目程度の短いリズムをつくる経験をしている。また4年生になってからも「いろんな木の実」のリズム伴奏を自主的につくって演奏する子どもがいた。また、リコーダーで「陽気な船長」を演奏した時、フレーズの最後のふしを即興的に変化させて演奏する子が数名いるなど、ふしをつくることにも興味をもち始めている。

(2) 音楽づくりとは、児童が自らの感性や創造性を働かせながら自分にとって価値ある音や音楽をつくる活動である。

本題材では子どもたちが興味を示している「おはやし」づくりに取り組ませる。おはやしとは、「にぎやかにして引き立たせる」という意味の「はやす」から名詞化した用語で、声や楽器でのおはやしがある。ふしは5音音階でつくられており、子どもたちも演奏しやすい。「鑿行列のおはやし」には勇壮で躍動感あるリズムや、ふしと太鼓とチャンガラの組み合わせのおもしろさがある。子どもたちにとって馴染みのある「鑿行列のおはやし」を視点をもって鑑賞することで、おはよしの楽しさや構成を見つけることができ、それらを使って「自分たちのおはやし」づくりに意欲的に取り組むことができると考える。本題材ではこれまで子どもたちが触れてきたリズムやリズムづくりの経験を生かして和太鼓とチャンガラの2つのリズムを組み合わせ、躍動感のあるおはやしづくりに取り組ませる。さらに子どもたちの興味や今後の音楽づくりへのつながりも考慮し、自分たちでふしをつくったり、リズムの反復や変化という音楽の構成に基づいておはやしをつくったりする場も設定する。

児童がおはやしをつくる過程では一人ひとりの思考を大事にしながら、その考えや思いを伝え合い、試行錯誤しながらグループでまとまりのある作品に練り上げていくようにすることで、音楽に対する創造性や主体性を育みたい。このおはやしづくりで得た力は、鑑賞等の場面でもふしやリズム、構成など

の音楽の諸要素について気づく力へとつながっていくことを願っている。

(3) 本題材で取り組ませるふしづくりや構成を考えた音楽づくりは、子どもたちにとって初めての経験である。そこで次のようにはやしづくりに取り組ませる。

○導入では「鬔行列のおはやし」を取り上げ、ビデオ鑑賞を通して太鼓のリズムの特徴や5音階のふしについて気づかせる。そこで見つけたおはやしの楽しさや特徴を使って自分たちのおはやしをつくってみようと子どもたちに語り、つくる意欲へ結びつけたい。また、つくりたいおはやしのイメージ(太鼓のリズム・使う楽器など)を話し合い、見通しをもたせたい。

○ふしは、一人ひとりが5音(ミ・ソ・ラ・ド・レ)から音を選んで2小節ずつづくり、つくったふしをつなげてクラスのふしとしたい。5音(ミ・ソ・ラ・ド・レ)を即興的に奏でるとふしができる喜びを味わわせたい。

○構成については、始め2小節・中間8小節・終わり2小節の全12小節のおはやしをつくらせ、始め・中間・終わりと変化する楽しさを感じさせたい。

○リズムについては、2小節を1フレーズとし、中間部の太鼓のリズムは教師が示したリズムから一人ひとりが選んで組み合わせ、始めと終わりはグループで工夫してつくらせる。

○グループについては、中間部のリズムに同じリズムを選んだ子どもでグループをつくり、一人ひとりの思いを大切にしていきたい。

指導にあたっては、自分たちがつくったおはやしについて、工夫した点を発表させると共に、お互いのよい点を探しながら聴かせたり、教師もよさを認め伝えることで楽しく意欲的にはやしづくりに取り組めるようにしたい。

本時では、グループで始めと終わりの太鼓のリズムを工夫してつくらせる。まず、みんなでふしと中間部のリズムを演奏させ、前時まで自分たちでつくったおはやしを味わわせる。その後、本時の課題、グループで始めと終わりの部分のリズムをつくることを確認し、活動に入る。グループ活動では、まず自分のリズムをつくる時間をとり、その後自分のつくったリズムをたたいたり、つくった理由を友だちに伝えたりしてお互いがよさを認めたり一緒にたたいたりしてかわりをもたせながら、グループとしてのリズムをつくっていくようにしたい。

### 3 活動展開計画 (全7時間 本時5/7)

| 次 | 主な学習活動                 | 時 | 具体的な学習活動   |
|---|------------------------|---|--|
| 1 | 鬔行列のおはやしのふしやリズムの特徴を知ろう | 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「鬔行列のおはやし」をビデオで鑑賞して、太鼓のリズムの特徴や5音階のふしについて気づかせる。</li> <li>・自分たちがつくるおはやしについてイメージをもつ。</li> </ul> |
| 2 | オリジナルのおはやしをつくらう        | 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2小節の長さのおはやしのふしを一人ひとりがつくる。</li> <li>・ミ・ソ・ラ・ド・レの5音から音を選んでふしをつくり、記譜する。</li> </ul>               |
|   |                        | 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・始めのふし2小節、中間のふし8小節、終わりのふし2小節をみんなで完成させ練習する。</li> </ul>   |
|   |                        | 4 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間部で使いたい2小節の長さの太鼓のリズムを選ぶ。</li> </ul>   |
|   |                        | ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・始めと終わりのリズムをグループでつくる。</li> </ul>  |
|   |                        | 6 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンガラを加えグループでおはやしの練習をする。</li> </ul>  |
| 3 | 各グループでつくったおはやしを発表しよう   | 7 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分たちのおはやし」の工夫した点を発表してから演奏する。</li> <li>・他のグループの演奏のよさを感じ取ったり、自分たちの演奏と比べたりしながら聴く。</li> </ul>   |

#### 4 評価計画

| 次 | 時 | 音楽への関心・意欲・態度                    | 音楽的な感受や表現の工夫                         | 表現の技能                            | 鑑賞の能力                         | 音楽科における思考力・判断力・表現力                                     |
|---|---|---------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|--|
| 1 | 1 | 鑿行列のおはやしのふしやリズムの特徴に関心をもって聴いている。 |                                      |                                  | 鑿行列のおはやしのふしやリズムの特徴をとらえて聴いている。 | 自分たちのおはやしづくりのイメージをもっている。                               |
| 2 | 2 | 意欲的におはやしのふしづくりに取り組んでいる。         | 5音音階のおはやしのふしを工夫しながらつくっている。           |                                  |                               | 様々な発想をもちながら即興的にふしづくりをしている。                             |
|   | 3 |                                 | 5音音階のおはやしのふしのよさやつながりのよさを感じ取っている。     | おはやしのふしを正しく吹いている。                |                               | ふしのよりよいつなぎ方を考えたり、表現したりしている。                            |
|   | 4 | 太鼓のリズムのつなぎ方を楽しみながら取り組んでいる。      | 太鼓のリズムのつなぎ方のおもしろさに気づいて工夫している。        |                                  |                               | 太鼓のリズムを試してたたきながら、使いたいリズムを選んだりしている。                     |
|   | ⑤ | 友だちと話し合いながら意欲的にリズムづくりに取り組んでいる。  | 躍動的なリズムになるように始めと終わりのリズムを工夫している。      |                                  |                               | 躍動的なリズムになるように、リズムやたたき方を工夫している。                         |
|   | 6 |                                 | 楽器の音色やリズムの重なりに気をつけてチャンガラのリズムを工夫している。 | 拍の流れを感じてそれぞれの楽器のリズムが合うように演奏している。 |                               | よりよいおはやしになるためにチャンガラのリズムや全体の組み合わせについて話し合いながら繰り返し演奏している。 |
| 3 | 7 |                                 | 工夫してつくったおはやしを互いに聴き合い、そのよさを感じ取っている。   |                                  |                               | 自分たちのおはやしを楽しく表現している。                                   |

## 5 本時の学習

(1)ねらい グループごとに、始めと終わりの太鼓のリズムを躍動的なおはやしになるように工夫しながらつくりすることができる。

### (2)展 開

| 学習場面と子どもの取り組み   | 教師の支援と願い・評価  |
|---|--|
| 1. リズムあそびをする。<br>・リズム問答<br>2. 前時までにつくったふしと中間部のリズムを演奏する。<br>3. 本時のめあてを知る。  | ・楽しいおはやしづくりの雰囲気をつくる。<br>・リズムカードを掲示して参考にさせる。  |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             始めと終わりのかっこいい太鼓のリズムをつくろう           </div>  |  |
| 4. グループで始めと終わりの太鼓のリズムをつくる。<br>○自分でリズムを2小節つくる。<br>○友だちのつくったリズムを聴き合いながらグループのリズムをつくる。<br>・リズムが決まり、ふしと合わせている子<br><br>・太鼓のリズムを繰り返したいたり、違うリズムで試してどの組み合わせがいいか聴き比べたりしている子<br>・どのリズムにしているか決まらない子<br><br>・リズムは選べたが、そのリズムがたたけない子<br>・活動が進まないグループ | ・グループで順番に自分の考えたリズムをたたくことを伝える。<br>・聴いた感想を言い合い、グループとしてのリズムにするか相談させる。<br>・集中して活動できるように活動場所を配慮する。<br>→全部通して演奏したり、ふりをつけてもいいことを伝える。<br>→取り組みを認め、かっこいいリズムになるように助言したり、ふしと合わせてみるように助言したりする。<br>→なぜ決まらないのか聞いて、リズムパターンを一緒に選んでいく。<br>→リズムをタンやタタで唱えて確認したり、一緒にリズムをたたくなどして活動を支援する。<br>→活動が進まない理由を聞いて受け止め、改善策を一緒に考える。<br><br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             — 評価の観点(思考力・判断力) —<br/>             躍動的なリズムになるように、リズムやたたき方を工夫することができる。<br/>             【評価方法 観察, つぶやき, 演奏】           </div> |
| 5. いくつかのグループの発表を聴き合い、感想をもつ。   | ・児童がしっかり発表できるように発表するグループは太鼓をたたき、ふしは教員が演奏する。<br>・児童が感想発表をしたら、その点に気をつけてもう一度グループの発表を聴かせる。   |
| 6. 本時の学習をふりかえる。<br>・はずむようなリズムにするとかっこいいリズムがつくれて楽しかった。<br>・友だちと意見を出し合い、どんどんリズムが変化して、納得のいくリズムができた。   | ・各グループで協力してリズムづくりができたことを認める。   |